



THE GOSPEL NEWS

在日大韓基督教会
宣教100～110周年標語
감사의 백년, 소망의 백년
感謝の百年, 希望の百年
(데살로니가전서 5:18)

発行所 福音新聞社 (1部100円)
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田 2-3-18
☎03-3202-5398
発行人/趙重來・編集人/金柄鎬
fukuinshinbun@kccj.jp (福音新聞)
shinacho2003@daum.net (担当者)

在日大韓基督教会・日本キリスト教会

2014年「平和」についての共同声明

わたしたち宣教協約で結ばれた両教会は、聖書の信仰の良心に基づき、以下の事柄を安倍晋三首相と日本政府に強く表明し要求します。

「肉の思いは死であり、霊の思いは命と平和であります。」(ローマの信徒への手紙8章6節)

- 一、わたしたちは、人々の心に「敵」への恐怖心と憎悪を煽って、軍事大国としての国のかたちと誇りを発揚させようとする政治思想に従って国を誤導しようとする安倍晋三首相をはじめとする為政者たちの路線に、信仰と良心に従って断固として否を唱えます。
- 二、わたしたちは、集団的自衛権の行使容認についての閣議決定の即時撤回と、現行平和憲法の維持、そして北東アジア諸国との平和的な対話を強く望みます。肉なる欲望の行き着くところは争いであり、その先に待っているものは死です。真実な思いは、人と社会を命と平和へと導きます。
- 三、わたしたちは、信教の自由と政教分離原則を侵害し、周辺諸国を挑発してやまない今日の政府閣僚による靖国神社参拝に強く抗議します。
- 四、わたしたちは、「従軍慰安婦」問題に関する日本政府の責任回避的な行動を心から悲しみ、一日も早く被害者女性たちに日本政府によって真実な謝罪と公的な補償がなされることを要求します。
- 五、わたしたちは、二つの敵対するものを十字架のもとに和解へと導かれる平和の主イエス・キリストに従う信仰的立場から、繰り返されるヘイトスピーチに対して断固抵抗するとともに、去る7月24日に国連人権委員会が勧告したごとく、日本政府にそのような暴力を防ぐための早急な公的な対策を強く求めます。

これらの表明と要求は、以下に掲げる歴史的経緯と社会的事実とわたしたち両教会の信仰的実践の下に述べたものです。

2014年7月1日、安倍政権は集団的自衛権の行使を閣議決定しました。歴代内閣が憲法9条に触れることを理由に禁じ続けてきた「直接的な攻撃を受けていなくても、他国の戦争に参加する」という軍事行動を、この日本が行うという決定を正式に下したのです。これは「国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する」そして「陸海空軍その他の戦力は、これを保持しない」と明確に憲法9条に謳いながらも、自衛のための軍隊を持ち続け、周辺諸国と武力による直接・間接的なせめぎ合いを続けてきた日本のいびつな軍事状況が、新しい段階に入ったことを意味します。日本国は、政府の決定によって、ついに「戦争に軍力で加担できる国」となろうとしています。

閣議決定の前文には、この決定の背景に「冷戦終結後の四半世紀だけをとっても、グローバルなパワーバランスの変化、技術革新の急速な進展、大量破壊兵器や弾道ミサイルの開発及び拡散、国際テロなどの脅威により、アジア太平洋地域において問題や緊張が生み出される」ことがあるとしています。しかしこの「問題と緊張」が生み出されている状況、特に韓国、中国との緊張関係の深刻化の責任の一端は、明らかに日本側にあることを、政府も「国民」も共に自覚しなければなりません。平和と争いのどちらも、決してどちらか一方の当事者によってもたらされるものではないのです。

昨年12月26日に行われた安倍晋三首相による靖国神社公式参拝を初めとして、現役閣僚や国会議員たちによる靖国参拝が相次いでいます。靖国神社とはそもそも、軍国主義の精神的支柱であり、現在でも先のアジアに対する侵略戦争を支持・美化する考え方を流布する「聖戦」思想の本拠地として機能しています。そこでは戦死者の信仰や信条を無視し、強いられて戦争に動員された被植民地支配民族出身戦死者も「聖戦」に命をささげた英霊として問答無用で祀り、さらには戦争責任者として「極東裁判」で裁かれた者たちも英霊として祀られているのです。国の公の立場にある人がその役職を掲げて靖国神社に参拝することは、天皇制国家神道のもたらした歴史的な悲劇に対する反省を忘却し、憲法20条に刻まれた政教分離原則に抵触することを意味します。韓国・中国が「参拝の自制」を繰り返し呼びかけているにもかかわらず、あえて、まるで周辺諸国を挑発するかのよう参拝をして国際的な緊張を高める政府関係者たちの姿勢が、アジア諸国だけでなく、国際的にも広く批判を巻き起こしています。

また1993年、宮沢内閣当時に出され、いわゆる「従軍慰安婦」問題に関する旧日本軍の責任を認めた「河野談話」に対して見直しの試みがなされています。第一次安倍内閣は2007年3月、「軍や官憲によるいわゆる強制連行を直接示すような記述も見当たらなかった」との答弁書を閣議決定し、続いて現在の第二次安倍内閣は今年の3月に河野談話の「検証」を行うことを発表しました。その結果、河野談話発表当時、被害者女性たちの証言の裏付け作業が行われなかったことや、談話作成にあたって日韓の間で内容のすりあわせが行われていたことなどを発表し、河野談話の信憑性を落とし、公式見解としての価値を形骸化させようとしています。このことも、戦争責任を忘却する歴史修正主義的な行動として、国際的に大きな非難を呼び起こしています。(→2面に続く)

ここ数年来高まりを見せているヘイトスピーチ問題は、いまだに収まりを見せておりません。各地で憎悪に満ちた差別発言が相変わらず大音量でまき散らされており、これを規制する動きは全く見えません。むしろ、常に「言論の自由」が規制を不可能にする大義名分として取り沙汰されます。言論界では煽情的な「嫌中憎韓ブーム」が確実に広がっており、インターネット上では聞くに堪えない差別言語が拡散されています。国連人権委員会からの勧告の中で、長らく「差別禁止法の制定」と「国内人権機関の設立」を求められているにもかかわらず、政府閣議は「法的拘束力のない勧告に従う義務なし」という結論を下しています。もはや在日の諸外国人たちにとって、日本は安心して暮らせる国ではなくなり、このグローバル時代にそれぞれの地域社会で日本人も外国人もともに互いを尊重して暮らせる多文化共生のまちづくりの機運と構想は、この野放しにされるヘイトスピーチのために危機に瀕しているのです。この状況はすでに北東アジア諸国に知られており、これもまた国際間の緊張を高める結果となっています。

これまで見てきたように、日本は決して「アジア太平洋地域における問題や緊張」の被害者でも、傍観者でもありません。むしろ、この「問題と緊張」を積極的に生み出している当事国のひとつなのです。攻撃される危険性だけを強調した今回の集団的自衛権の行使容認の閣議決定は、国会での議論も尽さず、憲法にはっきりと禁じられている戦争と武力の行使を行おうとする暴挙であり、憲法9条の理念を解釈改憲によって実質的に放棄することを意味します。さらに、それは憲法9条を掲げる日本に対する世界の尊敬と信頼をはなはだしく裏切ることになるのです。

わたしたち在日大韓基督教会と日本キリスト教会は、「十五年戦争」の開始とともに軍国主義的社会統制を強めていった日本の政府によって信教の自由を侵され、宮城遙拝・神社参拝を強要されてもなお、教会を守るために国に従うことが必要と、かつて考えてしまいました。平和の主の主権ではなく、侵略戦争を「聖戦」と美化する国威発揚と戦争遂行に身を委ねたのです。このような自らの罪責を神の前に想起し、新たにするものです。わたしたちはかつての誤った道としての戦争がもたらした測り知れない犠牲と悲劇を深く心に刻み、またかつての侵略戦争の道具として「従軍慰安婦」という名のもとに「性的奴隷」とされた方々の問題を戦後長い間看過してきたことについて、神の前に自らの罪を告白し悔い改めます。

平和の主に従うとき、かつて各々の思いを互いに理解できずにいたわたしたちも、謝罪と受容を与えられて共に歩むことが可能とされました。わたしたち両教会は、敵意という隔ての壁を取り壊してくださった主イエス・キリストのもとで、今や和解と交わりを与えられた者たちとして、わたしたち自身の中から、政治的宣伝によって敵意を煽られ、再び戦争の出来る軍事大国への道を選びとろうとするような肉の思いが取り除かれ、命と平和の主イエス・キリストに従って生きようとする霊の思いが満たされることを祈ります。わたしたちは、この国と北東アジアの地において主の正義と平和が実現されることを切に願います。

2014年 8月 15日

在日大韓基督教会 総会長 趙重來
日本キリスト教会 総会議長 高松牧人

<関東地方会> 東地区教会 第19回「日韓教会交流会」



毎年6月に、日本基督教団東京教区の東支区と在日大韓基督教会の関東地方会に所属する六つの教会の共催で、「日韓教会交流会」が開かれている。毎年、会場教会を交互にもちながら開いているが、今年は6月22日(日)午後2時から、教団の富士見町教会(JR飯田橋駅前)を会場にして開催された。

第一部の合同礼拝は、張慶泰牧師(東京聖民教会)の司会で、鄭有盛牧師(東京東部教会)が韓国語で聖書朗読した後、在日大韓基督教会側の参加牧師たちによる、男性重唱で主を讃美した。そして、韓聖炫牧師(西新井教会)が徒使言行録1章8節から11節を本文にして、説教した。韓牧師は、「主イエスは、天に上げられ、また来ると約束された。その時期は、人間には分からないが、切迫している。なぜなら、福音がこの地の果てにまで、すでに宣べ伝えられているためであること。動揺することなく主の業に務めること。神の国の宣教のために、両教会が、これからも日本の地において、協力し合いながら福音宣教の使命を果たしていくこと」が強く評られた。その後、富士見町教会の藤盛勇紀牧師の司式で、聖餐式も執り行われた。

さらに、韓国のソウル神学大学のカリスクワイアー(シン・ウンソク教授指揮)による特別讃美に皆が恵みに満たされた。席上献金は、KCCJの未自立の教会のために献金を捧げ、金東洙牧師(東京希望キリスト教会)の祝祷で礼拝を終えた。第二部は、1階の集会室に移り、両教会からの挨拶があった。両教会の参加者は、約110名ほどだったが、毎年、主にある美しき交わりを持つことができ感謝している。

(報告:西新井教会、韓聖炫牧師)

在日コリアン文化の創造と多文化共生社会を目指して、在日本韓国YMCAは皆様と共に歩みます。



東京◆ホテル:東京で一番安く便利な宿泊研修施設。フロントは日・韓・英語に対応、24時間営業。10名様~200名様のお会議及び宿泊研修(50名)も可能。
 ・スペースYホール:200席の多目的ホール。セミナー・コンサートなどに対応。
 ・韓国文化教室【チャング・カヤグム・舞踊】・韓国語講座・各種子どもクラス
 ・YMCA東京日本語学校【3ヶ月~2年、短期研修】

関西◆ほんご教室《新規開講・募集中》韓国民俗芸術科【舞踊・チャング】

在日本韓国YMCA <http://www.ymcajapan.org/ayc/jp/>

東京韓国YMCAアジア青少年センター 〒101-0064

関西韓国YMCAアジア青少年センター 〒537-0025

*会員及び教職者割引有。詳しくはお問い合わせください。

東京都千代田区猿樂町2-5-5 ☎03-3233-0611

大阪市東成区中道3-14-15 ☎06-6981-0782

税込	平日	休・休前日
シングル	¥6,500	¥6,000
ダブル	¥10,500	¥9,700
トリプル	¥13,500	¥12,500
朝食・コーヒー¥200(宿泊者価格)		

<関西地方会>

アシュラム祈禱修養会

関西地方会伝道部が主催する「第 43 回アシュラム祈禱修養会」が、去る 5 月 12 日～13 日に、「同志社びわこリトリートセンター」で、「神の言葉と祈りによって聖なるものとされるのです!」(テモテへの手紙一 4 章 5 節)の主題の下で開催された。関西地方会の全教会の牧師と教会員及び浦項中央教会の信者を合わせて 108 名が参加した。今回は、韓国の浦項中央教会の徐任重牧師が講師だった。

宋南鉉 牧師(大阪第一教会)の全体進行と共に、関西地方会の牧会者たちの祈禱、讃揚、伴奏、通訳、案内等によって恵みの内に進行された。まず、開会礼拝は、金必順牧師牧師(堺教会)が「ガリラヤ湖のほとりで」(ルカ 5:15～16)という題で説教した後、徐任重牧師が「信仰の法則通り生きなさい」(マタイ 16:21-24)という題で講義した。

その後は、証しと祈りをした。夕食後には、徐牧師が「通鑑の知恵で生きて行こう」(サムエル記上 12:14～18)という題で講義した後、参加者全員は分団に分かれて執り成しの祈りをした。



翌日の早天祈禱会は、金武士 牧師(大阪西成教会)が「執り成しの祈り」(エフェソ 6:18～19)という題で説教した後、一同は野外黙想を行った。朝食後は、徐任重牧師の最後の講義があり、1泊2日間、各人が受けた恵みを分かち合う恵みに満たされる時をもった。

閉会礼拝は、趙永哲牧師(大阪北部教会)が「言葉と祈りと使命」(テモテへの手紙一 4:5)という題で説教し、アシュラム祈禱会の意味を再考した。

昼食後、参加者たちはアシュラム祈禱修養会を恩みの中で終えることができたことを神さまに感謝しながら、各教会に向かった。さまざまな奉仕をして下さった方々に感謝しながら、これからも関西地方会の各教会がアシュラム祈禱修養会を通して恩みを受け、祈禱とみ言葉の黙想に専念して行くように切に祈る次第である。

(報告:宋南鉉牧師)

<全国教会> 女性連合会

第 1 回「青年の集い」



教会女性たち、オモニたちの共通の願いは子どもたちが信仰をしっかりと継承し、クリスチャンホームを築くことである。このような思いから、全国女性会主催・第 1 回「青年の集い」(信徒委員会、全国長老会、青年会全国協議会後援) Gospel in Kobe de Night が、去る 7 月 19 日(土)に、神戸市庁舎 24 階で開催された。

ポスターを配布し、機会があるごとに宣伝して来たが、はたして青年が集まるのかとても不安だった。しかし締め切り前後に申し込みが相次ぎ、34 名の青年参加者(女性会から 9 名、合計 42 名)があった。

集いは 1 部がバイブルタイム、2 部がパーティータイムで、講師は谷本仰牧師(南小倉バプテスト教会)だった。関東、西南も含め全国から来た参加者たちは、はじめはとても緊張気味だったが、バイオリニスト、音楽療法士、大学講師、ホームレス支援、家庭では 5 人の子の父親といういろいろな顔を持つ谷本師が自身について語り、次第に雰囲気緩和になって行った。

続くパーティータイムは青年が司会進行をし、ゲームや青年のバンド演奏をはさんでフリートークの時間となった。日が沈み美しい夜景が見渡せる中、バイオリンの音色が雰囲気を盛り上げた。終了後、「またこのような企画をしてほしい」との要望や、「ゴスペルと銘打った割にゴスペル音楽が少なかった」、「目的をはっきり知らなかった」などの声が聞かれた。反省点は多々あるものの、はっきりしたことは、青年たちにこのような交わりの場に対するニーズがあるということ、青年に任せきりにするのではなく、サポートすることが求められているということである。

最後に、この集いのために祈り、献金をしてくださった方々に心から感謝したい。(報告:朴栄子)

一歩踏み出す 十字架の道 全国検索サイト
レホボト・ジャパン
Christian Calling Search Site
http://www.rehoboth.jp
Tel: 090-3945-3373
e-mail: info@rehoboth.jp
住所: 兵庫県芦屋市朝日 5-10-35
レホボトジャパン 検索

豊かな味、豊かな心。
妻家房
SAIKABO
代表取締役 吳永錫 (東京希望キリスト教会 長老)
四谷本店: 東京都新宿区四谷 3-10-25 Tel. 03-3354-0100

〈東山荘会議から30周年を迎えて〉 久々に、北朝鮮の教会と再会



韓半島の正義・平和・和解に関する国際協議会

北朝鮮の教会との久々の出会いが、去る6月17日～19日、スイスのジュネーブのボセイで、世界教会協議会(WCC)の主管で行われた。これは、去る2012年1月に亡くなった故康ヨンソプ(朝鮮キリスト教連盟、以下、朝キ連)委員長の後任である康ミョン Chol 牧師(朝キ連委員長)と正式に初対面する場であったので、韓国の教会だけでなく、世界の教会からも注目を浴びた。

北朝鮮側は、朝キ連の康ミョン Chol 委員長と李ジョン口副委員長等の参加をはじめ、韓国キリスト教教会協議会(NCKC)並びに、15カ国の教会や関連機関の代表55人の出席した。在日大韓基督教代表としては、総幹事金柄鎬牧師が出席した。



今回の会議では、日本の「東山荘会議30周年」を記念する礼拝・聖餐式・セミナー・ディスカッション等のプログラムが行われ、世界の教会が、毎年、韓半島の平和のために祈るの日を定めることを提供する宣言文も採択された。

朝キ連の委員長で選出されて以来、初めて国際的なイベントに参加した康ミョン Chol 牧師は、「様々な国の兄弟姉妹が参加した今回の会議は、朝鮮半島の平和と統一に向けた強い熱望の表現だと思う」と述べた。

その後、「インマヌエルの神はいつも私たちと共にあり、正義と平和の道に、私たちを導いて下さることを信じている」と語った。

一方、今回の協議会では、日本軍による従軍慰安婦被害者の一人であるキル・ウォンオク(길원옥)お婆さんの証言を聞く貴重な時間を持った。それで、その後の宣言では、「平和をつくり出すことにおいて女性の役割が重要であること。戦争中は女性が一番苦む被害者であるという事実を悟らせてくれた。真の平和は、女性の参与と献身なしでは実現できない」という内容を盛り込んだ。さらに、日本政府が従軍慰安婦被害者たちに心から謝罪すべきであることを要求した。

そして金柄鎬総幹事は、在日大韓基督教教会が毎年8月の第2週に実施している「平和統一主日献金」の中から、1万ドルを朝キ連に伝えた。さらに、「私たちだけ」、「ウリ言葉」で開かれた非公式の席では、「最近、固まっていた北朝鮮と日本との関係が良くなって行く兆しが見える。

だから、分断70周年を迎える2015年3・1節を前後にして、在日大韓基督教教会が、東京で南北の教会が会えるようにして努力してくれることを願う」という意見を交換した。

それゆえ、9月の末に開かれる本国の宣教協約7教団との協議会において、「一緒に協議して行こう」と合意した。

(報告：編集部)

福岡教会 担任牧師招聘

1. 資格
 - 1) 在日大韓基督教教会所属牧師および宣教師(現在)
 - 2) 年齢：約35～55才
 - 3) 牧会経歴：10年以上
 - 4) 日本語と韓国語が両方出来る方
2. 提出書類
 - 1) 履歴書及び質問書：各1部
(添付ファイルを印刷して用いてください)
 - 2) 牧師按手証書：1部
(在日大韓基督教教会で按手を受けてない場合)
 - 3) 最終学歴卒業(修了)証明書及び学位論文
(該当の場合)：各1部
 - 4) 奉仕(出席)教会の週報：1カ月分
 - 5) 写真：家族写真や活動写真等複数枚可能です。
3. 提出期間：2014年9月7日～10月10日必着
※注意事項
 - 1) 提出書類は、本教会の様式を用いて下さい。
※福岡教会のホームページでダウンロード
<http://www.fukuokachurch.org/indexk.htm>
 - 2) 個別に追加書類を要求することもあります。
4. 書類送付先及びお問い合わせ
〒812-0044 福岡市博多区千代5-11-48
福岡教会 担任牧師招聘委員会
※お問い合わせは、メールをお願いします。
(chungbing14@gmail.com)
5. その他
 - 書類発送後、発送した事をメールでお知らせください。
 - 郵便の表に「担任牧師招聘書類」と記載して下さい。
 - 結果は、個別通知します。
 - 提出された書類は秘密情報とし、返却しません。

在日大韓基督教教会福岡教会 担任牧師招聘委員会